

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

勝池レポート      アジア資産運用アドバイザー 勝池和夫

「インド株投信は種である」

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

以下はドイツの哲学者、フリードリッヒ・ニーチェ（1844～1900 年）の言葉です。

「樹木にとって最も大切なものは何かと問うたら、それは果実だと誰もが答えるだろう。しかし実際には種なのだ。」

この言葉を今日の日本の投資家へのアドバイスとして捉えると、資産形成にとって最も大切なものは、毎月分配型投信の分配金ではなく、将来投資元本が大きく増加する可能性を有する成長株投信である、になるかも知れません。日本の投資家の金融資産の中には、果実に期待した分配型投信が、まるで果物の老舗千疋屋の店頭のように並んでいます。それでは資産という樹木の生育は限られません。重要なのは、将来大きな樹木に成長する可能性を秘めた種を厳選し、それを植え、芽が出たらすぐに摘んでしまうことなく大切に育てることだと思います。節税効果が大きいニーサやイデコはそのための苗床の様なものです。私は、その種の一つとしてインド株投信に期待しています。そして、その種が将来、ベンガル菩提樹のような世界最大で最強の樹木に育つまでじっくりと見守っていこうと思っています。

日本では 4 月から高校の家庭科で金融教育の授業が始まっています。家庭科での資産形成の話には多少戸惑いがあるでしょうが、上記のように中学校で習った草木から樹木の育成に譬えて説明すると分かりやすいかも知れませんね。